

2007年9月28日

 株式会社ソフトフロント  
 代表取締役社長 阪口 克彦  
 (証券コード番号:2321)

 問い合わせ先:取締役財務・管理統括担当  
 佐藤 健太郎  
 電話番号:03-3568-7007

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年8月3日に『業績予想の修正に関するお知らせ』において公表した平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の中間期ならびに通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 当期の業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

##### 中間期

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	535	20	23	5
今回修正予想(B)	300	127	130	112
増減額(B-A)	235	107	107	107
増減率(%)	43.9	-	-	-
(ご参考) 前年中間期実績 (平成19年3月中間期)	407	44	45	46

(参考)1株あたり予想当期純利益(中間) 1,298円22銭

##### 通期

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,260	140	135	150
今回修正予想(B)	1,060	150	145	160
増減額(B-A)	200	10	10	10
増減率(%)	15.9	7.1	7.4	6.7
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	961	46	44	42

(参考)1株あたり予想当期純利益(通期)1,854円60銭

## 2. 修正の理由

当事業年度における業績につきましては、通期で売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに前事業年度実績を上回る見込みとなっておりますが、売上高に占める「受託開発」と「ソフトウェア販売」の構成比が当初の予想と変化していること、半期における納品時期見込みの相違により売上計上が当事業年度の後半期以降にずれ込んでいること等の影響が出ております。

しかしながら、今後も当社をとりまくSIP関連市場は拡大に向かっており、それに伴いコンシューマ向け製品が市場に普及していくと見ており、当社におきましても、受託開発と共にソフトウェア販売は拡大していくものと見込んでおります。また、当社のお客様の多くが3月に予算の締めを迎える大手通信キャリアやメーカーであることから、後半期(特に第4四半期)に売上高が大きくなる傾向は当事業年度も続く判断しております。

### (中間期業績予想)

中間期におきましては売上高、各利益共に当初の計画を下回る見込みであります。売上高及び各利益の修正につきましては、受託開発案件の減少、および納品時期が見込みより遅れ後半期にずれ込んでいる状況により、前回発表いたしました予想を下回る見込みとなったことによるものであります。

### (通期業績予想)

通期におきましては売上高が当初の計画を下回る見込みとなりましたものの、売上高に対する利益率の高いソフトウェア販売の割合が増加することにより、営業利益、経常利益、当期純利益は当初の計画を上回る見込みとなりました。

売上高の修正につきましては、携帯電話マーケット・NGNマーケットにおける商用サービスの本格展開が具体化してきており、それに伴い後半期には当該事業の売上高も伸びるものと見ておりますが、当事業年度内に中間期までの売上高の減少分をカバーするには至らず、1,060百万円(前事業年度比98百万円増)と前事業年度を上回るものの、前回発表いたしました予想を下回る見込みとなったことによるものであります。

しかしながら、利益率の高いソフトウェア販売の割合が増加する見込みであるため、受託開発に係る外注加工費を中心に経費が減少することにより、各利益につきましては前回発表いたしました予想を上回り、営業利益150百万円(前事業年度比103百万円増)、経常利益145百万円(前事業年度比100百万円増)、当期純利益160百万円(前事業年度比117百万円増)を見込んでおります。

今後とも拡大する成長市場に積極的に対応することで、さらに本格化するSIP関連市場の拡大に伴う事業拡大を図ってまいります。

### (注)

上記に記載した業績予想等は、本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想であり、リスクや不確定要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等はこの資料に記載されている予想とは異なる可能性があることをご承知おきください。

以 上